

[事務局長談話]

通常国会の閉幕にあたって

第 174 通常国会が閉幕した。昨秋国民の大きな期待に基づいて政権政党が代わり、新政権が誕生した。だが、新たな政権は、国民の切実な要求に応えようとはしなかった。普天間基地問題然り、政治とカネをめぐる問題然りである。その結果、政権発足後 1 年を待たずして首相が交代せざるをえなかった。だが、政府の看板が変わっても、沖縄県民と多くの日本国民を苦しめているアメリカ追従の安保・外交政策と多国籍企業優先の国内政策を根本的に転換しない限り、国民の信頼と支持を確保することはできない。

新首相は、財界の意向に沿って消費税増税を公言しつつ、回復した支持率が反転しないうちにとばかり参議院本会議を開催することなく、強引に参議院選挙に突入した。党利党略による国会軽視の姿勢は、国民生活優先の政治スローガンとはあい入れない。選挙戦の中で、政権与党も含めすべての政党が国民の声にしっかりと耳を傾け、国民本位の政治に転換するには、どのような政策課題を、いかにして実行していくべきかについて、公明正大な論戦を展開することを強く望む。

2010年6月18日

日本科学者会議

事務局長 米田 貢